

各位

全7ページ

登録速報(2022-056)

2022年 1月12日

クミアイ化学工業株式会社

企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2022年1月12日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号： 第23554号

名称： クミアイベネビアOD

2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下の事項を変更し別紙1のとおりとする。

- ・ 作物名「キャベツ」、「だいこん」、「かぼちゃ」、「たまねぎ」、「ブロッコリー」、「ねぎ」及び「にんにく」に使用方法「無人航空機による散布」を希釈倍数「20倍」及び使用液量「1~2L/10a」で追加する。
- ・ 作物名「だいこん」の適用病害虫名「ダイコンサルハムシ」を「ダイコンハムシ」に変更する。
- ・ 作物名「えだまめ」及び「だいず」の適用病害虫名「ハスモンヨトウ」及び「マメシクイガ」に、希釈倍数「32倍」、使用液量「0.8~2.4L/10a」及び使用方法「無人航空機による散布」を追加する。
- ・ 作物名「えだまめ」及び「だいず」の適用病害虫名「アブラムシ類」に、希釈倍数「32倍」、使用液量「1.6~2.4L/10a」及び使用方法「無人航空機による散布」を追加する。
- ・ 作物名「やまのいも」に使用方法「無人航空機による散布」を希釈倍数「40倍」及び使用液量「1~3L/10a」で追加する。

- ・ 作物名「かんしょ」に使用方法「無人航空機による散布」を希釈倍数「40倍」及び使用液量「1~2L/10a」で追加する。
- ・ 作物名「ばれいしょ」及び「未成熟とうもろこし」に使用方法「無人航空機による散布」を希釈倍数「40倍」及び使用液量「2~3.2L/10a」で追加する。
- ・ 作物名「キャベツ」及び「ブロッコリー」のシアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数について、「4回以内（定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内）」を「4回以内（定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）」に変更する。
- ・ 作物名「だいこん」のシアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数について、「4回以内（は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内）」を「4回以内（は種時までの処理は1回以内、は種後の処理は3回以内）」に変更する。
- ・ 作物名「かんしょ」に適用病害虫名「ヒルガオハモグリガ」を追加する。
- ・ 作物名「たばこ」に適用病害虫名「タバコノミハムシ」を追加する。
- ・ 作物名「だいず」の総使用回数を「3回以内」から「4回以内（は種前の処理は1回以内、は種後の処理は3回以内）」へ変更する。
- ・ 作物名「えだまめ」の総使用回数を「3回以内」から「4回以内（は種前の処理は1回以内、は種後の処理は3回以内）」へ変更する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容
農薬登録申請書第8項中、以下の事項を変更し、別紙2のとおりとする。

① 農薬登録申請書第8項に(11)として以下を追加し、現行(11)以降を順次繰り下げる。

(11)本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。

- 1) 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
- 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。

② 農薬登録申請書第8項(14)を以下のとおり変更する。

<変更後>

(14) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

- ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- ② 無人航空機による散布で巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しな

いこと。

- ③ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。また、地上散布では散布直後から1日後まではミツバチの巣箱を移動させるか、巣門を閉じること。
- ④ 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

③ 農薬登録申請書第8項(16)を以下のとおり変更する。

- (16) 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントリプロール を含む農薬の 総使用回数		
<u>キャベツ</u>	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバチ類 オオタバコガ	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	<u>4 回以内</u> (<u>定植時までの</u> <u>処理は 1 回以</u> <u>内、</u> <u>定植後の処理は</u> <u>3 回以内</u>)		
	アザミウマ類 アブラムシ類	<u>20 倍</u>	<u>1～2L</u> <u>/10a</u>			無人航空 機による 散布			
	アブラムシ類 ハモグリバエ類 キスジノミハムシ	2000 倍	100～ 300L/10a			散布			
<u>だいこん</u>	ヨトウムシ	4000 倍	<u>1～2L</u> <u>/10a</u>			無人航空 機による 散布	<u>4 回以内</u> (<u>は種時までの処</u> <u>理は 1 回以内、</u> <u>は種後の処理は</u> <u>3 回以内</u>)		
	コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ カブラハチ <u>ダイコンハムシ</u>	2000～ 4000 倍				無人航空 機による 散布			
	アブラムシ類 ハモグリバエ類 キスジノミハムシ ヨトウムシ	<u>20 倍</u>				無人航空 機による 散布			
	アブラムシ類	<u>32 倍</u>				無人航空 機による 散布			
<u>えだまめ</u>	アブラムシ類	<u>32 倍</u>	<u>1.6～</u> <u>2.4L/10a</u>			収穫 7 日前 まで	3 回 以内	無人航空 機による 散布	<u>4 回以内 (は種</u> <u>前の処理は 1 回</u> <u>以内、は種後の</u> <u>処理は 3 回以</u> <u>内)</u>
	ハスモンヨトウ マメシクイガ	2000 倍 2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a					散布	
<u>だいず</u>	アブラムシ類	<u>32 倍</u>	<u>0.8～</u> <u>2.4L/10a</u>					無人航空 機による 散布	
	アブラムシ類	2000～ 4000 倍 2000 倍	100～ 300L/10a	散布					
	アブラムシ類	<u>32 倍</u>	<u>1.6～</u> <u>2.4L/10a</u>	無人航空 機による 散布					
<u>かぼちゃ</u>	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回以内			散布	
	ハモグリバエ類	<u>20 倍</u>	<u>1～2L</u> <u>/10a</u>			無人航空 機による 散布			
	ハモグリバエ類	2000 倍	100～ 300L/10a			散布			

(つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントリフ [®] ロール を含む農薬の 総使用回数
<u>たまねぎ</u>	シロイモジ [®] ヨトウ ハスモンヨトウ ハモク [®] リバ [®] エ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	アザ [®] ミウマ類	20 倍	$\frac{1\sim 2L}{10a}$			無人航空 機による 散布	
2000～ 4000 倍		100～ 300L/10a	散布				
<u>やまのいも</u>	ナガ [®] イモコガ [®] ハスモンヨトウ アブ [®] ラムシ類	40 倍	$\frac{1\sim 3L}{10a}$	収穫 7 日前 まで		無人航空 機による 散布	
<u>かんしょ</u>	ハスモンヨトウ ナカジ [®] ロシタバ [®] アリモト [®] キゾ [®] ウムシ イモジ [®] ウムシ ヨツモンカメノコハムシ ヒルガ [®] オハモク [®] リカ [®]	4000 倍	100～ 300L/10a			散布	
		40 倍	$\frac{1\sim 2L}{10a}$			無人航空 機による 散布	
<u>ばれいしよ</u>	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～ 300L/10a			散布	
	アブ [®] ラムシ類	40 倍	$\frac{2\sim 3.2L}{10a}$	無人航空 機による 散布			
<u>未成熟 とうもろこし</u>	アワノメイガ [®] オオタバコガ [®] ツマシ [®] ロクサヨトウ ムギ [®] クビ [®] レアブ [®] ラムシ	2000 倍	100～ 300L/10a	散布			
		4000 倍	$\frac{2\sim 3.2L}{10a}$	無人航空 機による 散布			
<u>ブロッコリー</u>	コナガ [®] アオムシ ハスモンヨトウ	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	散布	4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内)	
	アザ [®] ミウマ類 アブ [®] ラムシ類	20 倍	$\frac{1\sim 2L}{10a}$		無人航空 機による 散布		
<u>ねぎ</u>	シロイモジ [®] ヨトウ アザ [®] ミウマ類 ハモク [®] リバ [®] エ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	散布	4 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内 (但し、株 元灌注は 1 回以 内))	
		20 倍	$\frac{1\sim 2L}{10a}$		無人航空 機による 散布		
<u>にんにく</u>	アザ [®] ミウマ類 ネギ [®] コガ [®]	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	散布	3 回以内	
		20 倍	$\frac{1\sim 2L}{10a}$		無人航空 機による 散布		
<u>たばこ</u>	ヨトウムシ タバコノミハムシ	4000 倍	100～ 180L/10a	収穫 10 日 前まで	2 回 以内	散布	2 回以内

8. 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけること。
- (5) やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (6) アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (7) きゅうりに使用する場合、TPN を含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (8) トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意すること。
 - ①アゾキシストロピンを含む農薬との混用はしないこと。
 - ②アゾキシストロピンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用すること。
- (9) はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当っては事前にその適否を確認すること。
- (10) 使用量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (11) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - 1) 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (12) 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (14) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ② 無人航空機による散布で巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ③ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。また、地上散布では散布直後から1日後まではミツバチの巣箱を移動させるか、巢門を閉じること。
 - ④ 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行

われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

- (15) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (16) 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (17) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上